

## 平成17年度 受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

長崎伝統芸能振興会（長崎県長崎市）

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

黒森歌舞伎妻堂連中（山形県酒田市）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

（株）神楽門前湯治村（広島県安芸高田市）

地域伝統芸能大賞 支援賞（第3類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

該当者なし

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第4類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

国府町因幡の傘踊り保存会（鳥取県鳥取市）

地域伝統芸能奨励賞

貴島 康男（鹿児島県名瀬市）

## 受賞者 プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

長崎伝統芸能振興会（長崎県長崎市）



長崎くんちは、毎年10月の7、8、9日に行われる長崎の氏神「諏訪神社」の秋季大祭で、寛永年間にはじまった370余年の歴史を持つ祭り。歴代の長崎奉行が奨励したこともあって年々盛んになるとともに、異国情緒豊かなものが数多く取り入れられ、江戸時代より豪華絢爛な祭礼として評判のものであった。これらの演しものには、龍踊り・鯨の潮吹き・御座船・唐人船・太鼓山など多彩な種類と内容があり、長崎独自の文化的伝統を伝えるものとして重要な意義をもっている。昭和54年には国の重要無形民俗文化財に指定された。

長崎伝統芸能振興会は昭和45年に発足し、長崎くんちの円滑な運営と振興を促進し、併せて伝統芸能の保存育成を目的として活動を続けている。

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

黒森歌舞伎妻堂連中（山形県酒田市）



黒森歌舞伎は酒田市黒森地区に江戸時代中期の享保年間（1716～35）に伝えられ、270年もの歴史を持つ農民歌舞伎です。毎年旧暦の小正月にあたる2月15・17日に鎮守日枝神社の奉納行事として上演されています。上演演目は50ほどあり、そのほとんどは時代物で、多くは「通し狂言」として演じられてきました。演技の技法は独特のものを持っており、演技や所作の振りは「振り者」が工夫考案し振り付けています。そのため中央の大歌舞伎とは異なる面が見られます。また厳寒のさなか、雪の降りしきる中で上演されることから「寒中芝居」・「雪中芝居」と呼ばれ、夏に上演される福島県の檜枝岐歌舞伎と並んで「冬の黒森、夏の檜枝岐」と親しまれ、東北二大農村歌舞伎として広く知られています。

地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

（株）神楽門前湯治村（広島県安芸高田市）



広島県安芸高田市的美土里町では、十三の神楽団が伝統芸能である神楽を保存伝承している。美土里の神楽は、出雲系の神楽が島根県石見地方を経由して、古くは三百年以上前に伝わっていたと考えられている。広島県に伝承されている神楽のうち「芸北神楽」に属する美土里の神楽は、美土里を発祥の地とする「新作高田舞」の演目が主流である。わかりやすく演劇性に富んだ庶民的な神楽は、多くの人々に親しまれている。

平成10年にオープンした、まちおこしの複合交遊施設「神楽門前湯治村」を運営する第三セクターの株式会社神楽門前湯治村は、美土里神楽連合会と連携し名物「神楽ドーム」での神楽定期公演や、公開練習を通年で主催している。恒常的な神楽公演は、熱心な神楽ファンを生み出し伝統芸能の保存振興に大きく貢献するとともに、観光客の増大による産業振興など、地域の活性化にも寄与している。

地域伝統芸能大賞 支援賞（第3類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

該当者なし

**国府町因幡の傘踊り保存会（鳥取県鳥取市）**

因幡の傘踊りは、徳川末期、因幡の地方が大干ばつするとき、五郎作という老農夫が、冠傘を3日3晩振り回して踊り明かし、雨乞いの祈願をしたことに始まった。その後、国府町高岡の山本徳次郎が、長柄の傘にかえ、振りに剣舞の型をとり入れて、今日の傘踊りの基礎をつくったとされている。

「国府町因幡の傘踊り保存会」は、昭和45年の大阪万国博出演を機に国府町高岡・麻生・美敷の3つの保存会が一つになり結成された。平成12年に国府町役場の同好会が加って、現在の体制となり、鳥取県内外はもとより、海外でも公演するなど積極的に活動し、鳥取のPRに寄与するとともに各地で絶賛されている。昭和49年には鳥取県無形文化財に指定され、平成5年、平成14年には北京市で、平成7年にはニューヨーク（カーネギーホール）での公演もはたした。平成11年には文部大臣表彰を受賞。

## 地域伝統芸能奨励賞

**貴島 康男（鹿児島県名瀬市）**

1977年、奄美大島名瀬市に生まれる。幼少より並外れた歌唱力を持ち、奄美民謡界の大御所坪山豊氏に師事、91年若干13歳で奄美民謡大賞・新人賞を受賞した最年少記録保持者でもある。93年には日本民謡大賞九州中国地区大会少年部門で優勝した。

2000年9月～10月、故野村万之丞氏と共にヨーロッパ公演を果たし、01年には鹿児島県民謡王座決定線で3年連続青年の部優勝、名人位につく。現在も地元奄美大島に留まり、職務に励みながら島唄の若きホープとして活動中で、最近では地元4名と音楽グループを結成、ますますの活躍が期待される。